

第 6 章

調査研究

1 研究の概要

(1) 研究主題

「関係機関の意見を通し卒業生の実態や課題をまとめ、教育内容の改善を探る。」

(2) 設定理由

平成26年度の調査研究において、進路指導部が青年学級や同窓会一泊旅行等を利用して卒業生の実態や生活の様子の聞き取り調査を行った。その調査結果を基に就労先での就労状況から、本校での学習が卒業後の生活にどのように関わっているかをまとめ調査研究として報告して教育課程の編成に寄与した。

そして、今年度「今金町キャリア教育・職業教育研究フォーラム」が立ち上がったことを踏まえ、そのフォーラムの意見を基に卒業後の就労により適した教育課程の編成を考える上での指針になると考え実施する。

(3) 研究の内容と方法

研究は、今年度開催される「今金町キャリア教育・職業教育研究フォーラム」、「今金町障がい者雇用事業者連絡会」に進路指導部が参加して、その中で挙げられた意見をまとめ、卒業生の実態や問題を把握し、本校の教育活動に必要な内容や教育課程上の課題を進路指導部内でまとめるものとする。また、必要に応じて「今金町障がい者雇用事業者連絡会」の意見も参考にする。

(4) 推進日程

4月29日 第1回研究推進委員会：今年度の研修内容確認
5月12日 全体研修
5月31日 第1回今金町キャリア教育・職業教育研究フォーラム開催
6月11日 第1回障がい者雇用事業者連絡会開催
6月30日 第2回研究推進委員会：進捗状況の確認
10月11日 第2回今金町キャリア教育・職業教育研究フォーラム開催
10月27日 全体研修（中間発表会）
12月 8日 第1回進路指導部討議：卒業生の実態や問題の確認、部内意見のまとめ
12月15日 第2回障がい者雇用事業者連絡会開催
平成30年1月15日 第2回進路指導部討議：教育課程上の課題をまとめる
平成30年2月9日 全体研修（校内研究報告会）

2 研究の実際

(1) 会議録より

以下に、「今金町キャリア教育・職業教育研究フォーラム」「今金町障がい者雇用事業者連絡会」で出された卒業生の実態や問題となっている事例を挙げる。

○第1回今金町キャリア教育・職業教育研究フォーラム（5月31日）

A委員：

- ・スマートフォンを計画的に使用できず高額請求（月額25000円以上）を繰り返している。
- ・クレジットカードを計画的に使うことができず、残高不足になっている。
- ・グループホームでの生活がだらしないと聞く。
- ・無駄遣いが多くお金の使い方に支援が必要ではないか。
- ・職場では、目の前の作業に追われがちで、商品がこの先どうなるのか、どのようにお客様の口に入るのかという見通しをもっていない。

B委員：

- ・今金町就労支援事業で採用された卒業生Aは、他の一般採用新人と同じように仕事をしている。今後、今金町役場以外での実習を検討している。また、同じく今金町就労支援事業で採用された卒業生Bは、今後、図書館以外の業務も経験させたい。

C委員：

- ・農業は食べてなんぼ！である。自分たちの作った作物を食べることでもっと農業に対するやる気が出る。そうすると、農業に対する意識が変わる。

D委員：

- ・器を作って売るだけではなく、売った後にお客さんがそれをどう使うのかを考えて作るのが一番良い。実際に自分たちで使っていないと、作っているときの気持ちの込め方が違う。また、使うことによってお客様にいろいろな提案ができる。

○第1回障がい者雇用事業者連絡会開催（6月11日）

E社代表：

- ・グループホームで同年代と仲良く生活しているのか心配である。
- ・仕事自体が嫌にならないか心配である。
- ・スマートフォンの高額請求を繰り返している。

F支援員：

- ・本校との連携は深く、新規利用者の様子は細かく引き継がれている。

G社代表：

- ・職場では、「悪いことは悪い。」と教える指導をしている。
- ・その人の個性を見つけるようにしている。
- ・障がい者という言葉は極力使わないようにしている（障がいは相手の弱いところと思い、自分としっかり向き合うようにしている）。
- ・勤めてお金をもらうことは大変なことだと教えている。
- ・恋愛問題→障害があったら恋愛してはいけないのか→そんなことはないと考えている

○第2回今金町キャリア教育・職業教育研究フォーラム（10月11日）

B委員：

- ・今金町就労支援事業の2年間が終了した後を見据えて、役場以外の仕事も体験できるように現場実習を行ってほしい。

H委員：

- ・ i ・スマイルで採用した2名は無遅刻・無欠勤で優秀に働いている。
- ・日誌（法人が生活面の確認のために記載させている）に関して、質問項目が本人たちの理解度に合わず安易すぎてしまい、いつまでも自分たちを障がい者扱いしているという不満の声が上がっている。そのため、今後の参考に専門家の意見がほしい。
- ・休日の過ごし方が心配であったが、商工会の行事に積極的に参加している。これは、在学時からいろいろな町内行事に参加しているからであると思われる。
- ・保護者から、「息子と連絡が取れない。」や「しっかり仕事をしているか。」などの連絡を突然受けることがあり、保護者との関係に難しさを感じる。そのため、保護者にグループホーム支援員との連携を促している。

I委員：

- ・就労している2名は、作業内容を忘れがちである。そのため、在学時の実習をもっと定期的に行うなどして定着を図ってほしい。
- ・会社スタッフが障がい者との接し方に慣れていない。そのため、2名への対応や写真を使った説明の方法等をご教授願いたい。

○第2回障がい者雇用事業者連絡会開催（12月15日）

T社代表：

- ・最初は緊張気味だったが、最近は慣れてきて打ち解けてきた。
- ・現在は、イチゴハウスの除雪を行っている。
- ・頼まれたことは嫌がらない。
- ・注意するときにはどのように注意すればよいか分からない。

G社代表：

- ・農作業が頼もしくなっている。その反面、手を抜くことがある。
- ・現在は、光の里の支援員として勤務している。
- ・あまり束縛し過ぎると監視されていると感じるので同じ目線で見ている。

A社代表：

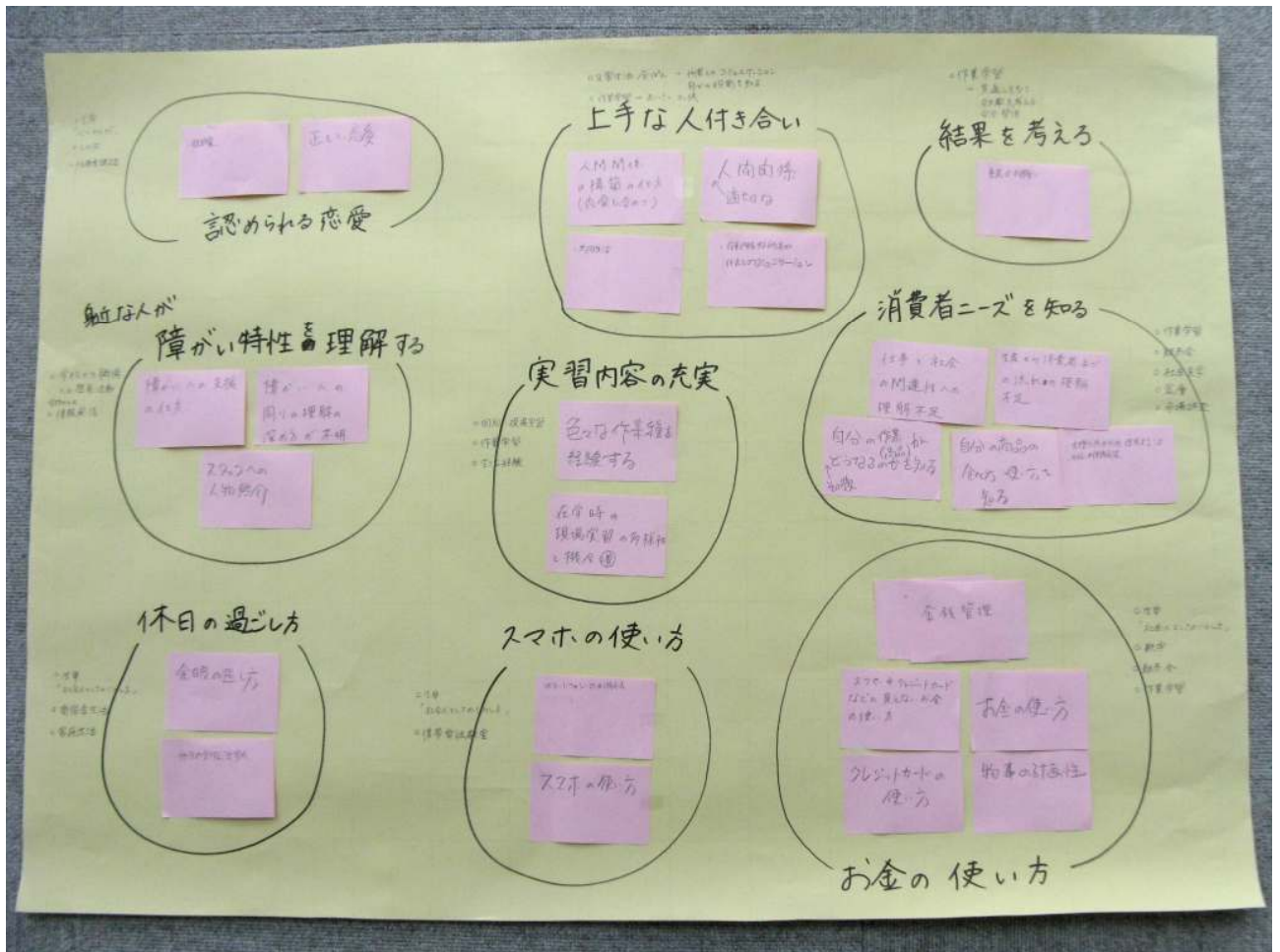
- ・注意されたときにブツブツ文句を言っている。
- ・朝が弱い。
- ・携帯の使い方（料金）が心配です。

F支援員：

- ・障害のある方と接するときは、その人の障害（弱いところ）をしっかり掴むことが必要である。

以上の意見を進路指導部内で KJ 法により分類して、それぞれの課題が本校の教育課程でどの分野に関係するか検討した。

(2) 意見のまとめ



以上のように課題を下記の9分類にまとめた。

- ①「認められる恋愛」、②「上手な人付き合い」、③「結果を考えると」、④「身近な人が障害特性を理解する」、⑤「実習内容の充実」、⑥「消費者ニーズを知る」、⑦「休日の過ごし方」、⑧「スマホの使い方」、⑨「お金の使い方」

また、それぞれが本校の教育課程のどの分野に関係するかを考えると

- ①「認められる恋愛」
 - 「生活単元学習：心とからだ」、「LHR」、「性教育講話」
- ②「上手な人付き合い」
 - 「日常生活全般：他者とのコミュニケーション、自分の役割を知る」、「作業学習：挨拶、礼儀」
- ③「結果を考えると」
 - 「作業学習：見通しを持つ、効率を考える、安全教育」
- ④「身近な人が障害特性を理解する」
 - 「学校から職場への啓蒙活動、学校からの情報発信」
- ⑤「実習内容の充実」
 - 「個別・現場実習、作業学習、生活体験等の充実」
- ⑥「消費者ニーズを知る」
 - 「作業学習、販売会、社会見学、客層、市場調査等を知る」
- ⑦「休日の過ごし方」
 - 「生活単元学習：社会人としての暮らし方、寄宿舎生活、家庭生活等での実践」

⑧「スマホの使い方」

→「生活単元学習：社会人としての暮らし方、携帯電話教室」

⑨「お金の使い方」

→「生活単元学習：社会人としての暮らし方」、「数学」、「販売会」、「作業学習などでの実践」

本校の教育課程の編成を考える上で、上記の課題を克服するためには各形態や各教科の指導内容、日常生活の指導内容を深める必要がある。

①生活単元学習

「心とからだ」→男女交際や性教育について

「社会人としての暮らし方」→休日の過ごし方（余暇活動）の携帯電話の正しい使い方を生活単元学習はもちろん携帯電話教室等でも深める。

「お金の使い方」→卒業後の生活全般についてクレジットカードも含めた計画的なお金の使い方

②作業学習

「対人関係」→挨拶や礼儀をしっかり学び、他者と適切なコミュニケーションをとる。

「見通しを持つ」→安全を心掛けるとともに結果や効率を考えて作業する。

「消費者ニーズを知る」→販売会等で自分たちの製品の流通や市場調査等を知る。

③学校生活

「上手な人付き合い」→他者と適切なコミュニケーションを取るようにする。また、学級活動や行事などで自分の役割を果たすことができるようにする。

④寄宿舎生活

「休日の過ごし方」→寄宿舎生活で卒業後にもつながる余暇活動を知る。

⑤その他

「実習内容の充実」→「個別・現場実習、作業学習、生活体験等の充実」

「身近な人が障害特性を理解する」→学校から職場や地域への啓蒙活動や情報発信。

「休日の過ごし方」→家庭生活等での実践。

3 成果と課題

今回、「今金町キャリア教育・職業教育研究フォーラム」「今金町障がい者雇用事業者連絡会」に参加して、評議員や雇用主の方々がここまで卒業生のことを生活の部分も含めて親身に考えてくださっていることに驚くとともに、改めて本校教育への期待の大きさを感じた。一般的に雇用主は、従業員の勤務成績は問題視しても、生活は勤務に影響しなければ個人的なことなので立ち入らないが、ここ今金町の雇用主は、本校卒業生の職場の様子で気になることがあればグループホームの支援員や本校に連絡するなど関係機関の連携が行き届いていることが改めて分かった。

今後は、卒業生が社会人としてより良い生活を送ることができるように、上記をはじめとする関係機関との連携を更に進めて行くとともに、本研究を教育課程の編成や生徒指導に活用していただきたい。